

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)																																																																																																																																																																																																																																																																												
事務事業名	No. _____	交通災害共済事業								←実施計画上の重点施策 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください																																																																																																																																																																																																																																																																				
政策名	No. _____	5 地域・安全								所属部	都市整備部																																																																																																																																																																																																																																																																			
施策名	No. _____	基本施策21 交通環境の整備								所属課	交通課																																																																																																																																																																																																																																																																			
予算科目	会計 _____	会計 _____	款 _____	項 _____	目 _____	事業コード _____	法令根拠	東京都市町村民交通災害共済条例 東京都市町村総合事務組合併任職員処務規程																																																																																																																																																																																																																																																																						
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度		→ (_____ 年度 ~ _____ 年度)																																																																																																																																																																																																																																																																							
事務事業の概要 (事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 交通災害共済(ちよこつと共済)とは、東京都の39市町村が共同で実施する共済制度で、39市町村の加入者の会費を出し合い、加入者が交通事故にあった場合、その会費から見舞金の給付を行う事業である。 平成21年度までは、国立市在住の小・中学生は教育委員会(学校指導課)予算にて特別加入を行っていたが、こども医療費助成制度の改正や日本スポーツセンターとの災害共済給付金契約など、子どもを取り巻く環境が変わったことから、平成22年度に特別加入制度は廃止した。 通常は、交通災害共済に対する問合せに回答することが主な業務内容だが、交通災害に遭った加入者から請求があった場合、必要書類が揃っているかを確認し、その書類をもとに審査を行う。審査後、請求が妥当であると認められれば見舞金の給付を行い、その結果を東京都市町村総合事務組合に報告する。																																																																																																																																																																																																																																																																														
1 現状把握の部 (PLAN) (DO) (1) 事務事業の目的と指標 ① 手段(主な活動) 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動) ・ちよこつと共済加入促進 ・見舞金請求審査 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動) ・ちよこつと共済加入促進 ・見舞金請求審査 ② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市民 ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 交通災害被災者に見舞金が支払われることにより経済的負担が軽減される。 ④ 結果(どんな結果に結び付けるのか) 交通災害被災者の経済的救済及び交通事故に対する啓発をすることにより、交通安全の推進につながる。																																																																																																																																																																																																																																																																														
(2) 各指標等の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">① 手段</td> <td>活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</td> <td>給付件数</td> <td>ア 26</td> <td>13</td> <td>20</td> <td>20</td> <td></td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>給付総額</td> <td>イ 4480000</td> <td>800,000</td> <td>1,410,000</td> <td>1,410,000</td> <td></td> <td>1,410,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">② 対象</td> <td>対象指標(対象の大きさを表す指標)</td> <td>人口</td> <td>ア 74381</td> <td>74,303</td> <td>74,546</td> <td>75,054</td> <td>75,466</td> <td>76,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>加入者総数</td> <td>イ 2909</td> <td>2,834</td> <td>2,705</td> <td>2,552</td> <td></td> <td>2,500</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③ 意図</td> <td>成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)</td> <td>給付件数</td> <td>ア 26</td> <td>13</td> <td>20</td> <td>17</td> <td></td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>給付総額</td> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④ 結果</td> <td>上位成果指標(結果の達成度を表す指標)</td> <td>交通事故発生件数</td> <td>ア 256</td> <td>221</td> <td>221</td> <td>228</td> <td></td> <td>200</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>											項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	給付件数	ア 26	13	20	20		20			給付総額	イ 4480000	800,000	1,410,000	1,410,000		1,410,000		② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	人口	ア 74381	74,303	74,546	75,054	75,466	76,000			加入者総数	イ 2909	2,834	2,705	2,552		2,500		③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	給付件数	ア 26	13	20	17		20			給付総額	イ							④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	交通事故発生件数	ア 256	221	221	228		200				イ																																																																																																																																																																																				
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																					
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	給付件数	ア 26	13	20	20		20																																																																																																																																																																																																																																																																						
		給付総額	イ 4480000	800,000	1,410,000	1,410,000		1,410,000																																																																																																																																																																																																																																																																						
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	人口	ア 74381	74,303	74,546	75,054	75,466	76,000																																																																																																																																																																																																																																																																						
		加入者総数	イ 2909	2,834	2,705	2,552		2,500																																																																																																																																																																																																																																																																						
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	給付件数	ア 26	13	20	17		20																																																																																																																																																																																																																																																																						
		給付総額	イ																																																																																																																																																																																																																																																																											
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	交通事故発生件数	ア 256	221	221	228		200																																																																																																																																																																																																																																																																						
			イ																																																																																																																																																																																																																																																																											
(3) 事務事業コストの推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>平成24年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">支出内訳</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>人</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>正規職員人件費計(C)</td> <td>千円</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費計(D)</td> <td>千円</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員人件費計(E)</td> <td>千円</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人に係るコスト計(F)</td> <td>千円</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">物に係るコスト</td> <td>物件費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>うち委託料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>維持補修費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">物に係るコスト計(G)</td> <td>千円</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">移転支的コスト</td> <td>扶助費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>補助費等</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">移転支的コスト計(H)</td> <td>千円</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">支出計(I)=(F)+(G)+(H)</td> <td>千円</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>2,500</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">収入内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>都支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>分担金及び負担金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>使用料及び手数料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">収入計(J)</td> <td>千円</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">収支差額(K)=(J)-(I)</td> <td>千円</td> <td>-2,500</td> <td>-2,500</td> <td>-2,500</td> <td>-2,500</td> <td>-2,500</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">一般財源投入割合</td> <td>%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>											項目	単位	平成24年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	支出内訳	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	延べ業務時間	時間	500	500	500	500	500	0	正規職員人件費計(C)	千円	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	0	再任用職員従事人数	人						0	延べ業務時間	時間						0	再任用職員人件費計(D)	千円		0	0	0	0	0	嘱託職員従事人数	人						0	延べ業務時間	時間						0	嘱託職員人件費計(E)	千円		0	0	0	0	0	人に係るコスト計(F)	千円	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	物に係るコスト	物件費	千円						0	うち委託料	千円						0	維持補修費	千円						0	物に係るコスト計(G)		千円		0	0	0	0	0	移転支的コスト	扶助費	千円						0	補助費等	千円						0	繰入金	千円						0	その他	千円						0	移転支的コスト計(H)		千円		0	0	0	0	0	その他	千円							0	支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	0	収入内訳	国庫支出金	千円						0	都支出金	千円						0	分担金及び負担金	千円						0	使用料及び手数料	千円						0	繰入金	千円						0	その他	千円						0	収入計(J)		千円		0	0	0	0	0	収支差額(K)=(J)-(I)		千円	-2,500	-2,500	-2,500	-2,500	-2,500	0	一般財源投入割合		%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
項目	単位	平成24年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																						
支出内訳	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																						
	延べ業務時間	時間	500	500	500	500	500	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	正規職員人件費計(C)	千円	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	再任用職員従事人数	人						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	延べ業務時間	時間						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	再任用職員人件費計(D)	千円		0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	嘱託職員従事人数	人						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	延べ業務時間	時間						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	嘱託職員人件費計(E)	千円		0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	人に係るコスト計(F)	千円	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500																																																																																																																																																																																																																																																																						
物に係るコスト	物件費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	うち委託料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	維持補修費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
物に係るコスト計(G)		千円		0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
移転支的コスト	扶助費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	補助費等	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
移転支的コスト計(H)		千円		0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
その他	千円							0																																																																																																																																																																																																																																																																						
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
収入内訳	国庫支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	都支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	分担金及び負担金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	使用料及び手数料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																						
	収入計(J)		千円		0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																					
収支差額(K)=(J)-(I)		千円	-2,500	-2,500	-2,500	-2,500	-2,500	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
一般財源投入割合		%	100%	100%	100%	100%	100%	100%																																																																																																																																																																																																																																																																						

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか？税金を徴収する必要があるか、民間や受益者ができる事業か？かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か？	安価な値段で加入できる本事業は民間ではできないものであり、行政の責任において行うものとする。																
有効性評価	② 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？																	
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 少額で加入できる共済制度がなくなる。																	
公平性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法は？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？																	
	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 事務に係る人件費の他は特に事業費がない。																	
効率性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 嘱託員による対応も可であるが、個人情報を取り扱うので注意を要する。また、対市民向けの窓口を有する課等においてこの事務を行うことにより事務(手続き)の効率化を図ることは可能である。																	
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 加入者は、全額自費において加入額を負担している。																	
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は？ 指数の大きな変動はない。																			
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は？ 事務の効率化																			
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION) (1) 1次評価者としての評価結果 ① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり (2) 全体総括(振り返り、反省点) 加入者増に向けた積極的な取り組みが必要である。																			
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)			(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		削減	維持	増加	向上		○		維持			×	低下	×		×
	削減	維持	増加																
向上		○																	
維持			×																
低下	×		×																
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 平成28年度に市町村民交通災害共済事業検討委員会を設置し、共済事業のあり方及び事業実施の方策についての答申を作成。加入者数の減少、支払い件数の減少にともなう基金残高の増加などに対して、加入金額の減額などの提案がなされた。																			
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか？ 加入者の交通事故による交通災害が0件になった場合、本事業は廃止となる。																			

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)							
事務事業名	No. 自転車安全教育事業	←実施計画上の重点施策 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください							
政策名	No. 7 都市基盤	所属部	都市整備部	所属課	交通課				
施策名	No. 基本施策21 交通環境の整備	所属係	交通係	課長名	中島 広幸				
予算科目	会計 一般 0: 8 0: 1 0: 2 0: 1 3: 7: 5: 0: 0	事業コード	法令根拠 交通安全対策基本法 自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律						
事業期間	単年度のみ	期間限定複数年度	→ (24 年度 ~ 年度)						
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)							
<p>・小学生向け 立川警察署や立川国立地区交通安全協会と連携し、主に3年生向けに自転車安全教室を市立小学校において実施している(毎年1回)。その際、免許証タイプの受講証と、自転車に貼りつけることのできるシールタイプの受講済証を発行し、意識の啓発に努めている。</p> <p>・中学生向け スクエアード・ストレイト方式と呼ばれる、スタントマンによる事故の再現を見学してもらうことによって安全への意識を高めてもらう交通安全教室を毎年1校ずつ実施している。</p> <p>・一般向け・その他 立川警察署等と連携し、交通安全運動期間に街頭キャンペーンや不定期に自転車安全教室を開催するほか、市民まつり等において自転車シミュレータを用いた自転車安全教室を実施している。市民祭りにおいて立川警察署によるスクエアード・ストレイト方式の交通安全教室に協力した。</p>		<p>主に中学生以上を対象とした恐怖体験をもとに交通安全への意識を啓発する交通安全教室が警視庁により推奨されたことを契機に、増加する自転車の交通事故への対応ということで開始した。他方、小学生に対しては、同様に自転車事故への対策として毎年体験型の自転車安全教室を実施し、自転車安全運転教室受講証を交付する等の活動を同時期に開始した。</p>							
1 現状把握の部(PLAN) (DO)									
(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動)									
平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動)									
自転車安全教室(小学校各校、第一中学校)、くにとち環境フェスタ参加(自転車シミュレータ安全教室)、交通安全運動期間中街頭キャンペーンの実施									
平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動)									
自転車安全教室(小学校各校、第二中学校)、くにとち環境フェスタ参加(自転車シミュレータ安全教室)、交通安全運動期間中街頭キャンペーンの実施、一般向け自転車安全教室									
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等									
自転車を利用する市民				③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)					
				交通ルールやマナーを学んでもらい、交通安全への意識を高めてもらう					
④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)									
自転車による交通事故防止の抑制									
(2) 各指標等の推移									
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	自転車教室開催回数(小学校)	回	8	8	8	8	8	
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	人口	人	74381	74,303	74,546	75,054	75,054	76,000
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	自転車教室参加人数(小学校)	人	381	593	677	600	600	600
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	交通事故発生件数	件	309	221	221	228	200	
(3) 事務事業コストの推移									
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	
支出内訳	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
	延べ業務時間	時間	120	120	120	120	120	0	
	正規職員人件費計(C)	千円	600	600	600	600	600	0	
	再任用職員従事人数	人							
	延べ業務時間	時間						0	
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0	
	嘱託職員従事人数	人							
	延べ業務時間	時間						0	
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0	
	人に係るコスト計(F)	千円	600	600	600	600	600	600	
物に係るコスト	物件費	千円	563	0	281	281	281	0	
	うち委託料	千円	263	0	281	281	281	0	
	維持補修費	千円						0	
物に係るコスト計(G)	千円	563	0	281	281	281	0		
移転支的コスト	扶助費	千円						0	
	補助費等	千円						0	
	繰出金	千円						0	
	その他	千円						0	
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0		
その他	千円							0	
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	1,163	600	881	881	881	600	0	
収入内訳	国庫支出金	千円						0	
	都支出金	千円						0	
	分担金及び負担金	千円						0	
	使用料及び手数料	千円						0	
	繰入金	千円						0	
	その他	千円						0	
	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0	
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-1,163	-600	-881	-881	-881	-600	0	
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		

2 評価の部(CHECK) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与と性評価	① 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?	道路交通法改正や東京都の条例制定などを受け、自転車の安全利用についての周知・教育を図っていくことが重要視されている。一般市民に広く教育を行い、また実効性を担保するという意味では行政が主体的に教育を行うことは妥当である。																
有効性評価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	市立の小中学校の児童・生徒については一定の成果が上がっていると考えられるが、一方でそれ以外の世代については現状では十分な成果が上がっているとは言えない。																
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)	自動車運転免許保有率が減少傾向にある中で、交通安全のルールについて学ぶ機会が減ってしまうことは、市民生活にとってマイナスであるといえる。																
効率性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	体験型の安全教室は、現状この事業を除いて一般に行われていない。																
	活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?																		
対象を大学生、一般成人や高齢者に拡充していくことが課題である																			
公平性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保余地	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	現在の事業費は必要最低限の物品購入費や委託費のみであり、教室自体は職員と警察、交通安全協会の連携のもと行っているため、事業費の削減は難しい。																
	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)	事業内容としては現在のものが最低限のものであり、これ以上の事務の削減は難しい。																
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	小学校・中学校対象のもの、市立学校のみに限られているため、これを私立学校にも拡充を検討するなどの見直し余地がある。																
	事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?																		
私立学校向けのメニューも検討の余地がある。																			
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)																			
(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 全国交通安全運動期間中にキャンペーン活動を展開する等新規事業にも取り組んだ。																	
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
④ 公平性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																	
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			削減	維持	増加	向上			○	維持			×	低下	×		×
	削減	維持	増加																
向上			○																
維持			×																
低下	×		×																
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																			
交通安全を推進する組織づくりが課題である																			
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?自転車利用のマナーや道路交通法の教育が、行政の介入なしに行われ、十分な成果を上げればこの事業は必要なくなるが、それは現実的ではないため、事実上廃止は不可能である。																			

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)												
事務事業名		No. 立川・国立地区交通安全協会参画事業		←実施計画上の重点施策 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください		所属部		都市整備部		所属課		交通課		
政策名		No. 7 都市基盤		所属係		交通係		課長名		中島 広幸				
施策名		No. 基本施策21 交通環境の整備		法令根拠										
予算科目		会計 0: 8 0: 1 0: 2 0: 1 3: 7: 5: 0: 0		事業コード										
事業期間		単年度のみ		単年度繰返		期間限定複数年度		→ (年度 ~ 年度)						
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)														
立川・国立地区交通安全協会は、(財)全日本交通安全協会の下部組織である(財)東京交通安全協会に所属しており、立川警察署内に事務局を置いている。立川警察と協力して、立川警察署の管轄地区における交通安全に取り組むことが主な業務である。主に、春・秋の全国交通安全運動への参加、地域イベントでの交通整理、小学校での自転車教室をはじめとする安全指導など、市民へ向けて交通安全対策活動を実施している。市としては、交通安全協会の運営費の一部として負担金を支払い、その他被服の貸与を行っている。														
0000. 各種協議会等への参画のみを行っている事業														
1 現状把握の部(PLAN) (DO)														
(1) 事務事業の目的と指標														
① 手段(主な活動) 32人														
平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動)														
・全国交通安全運動における事務的支援 ・放置自転車クリーンキャンペーンに伴うチラシ配り等の協力 ・負担金、被服貸与に関する事務														
平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動)														
同上														
(2) 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等														
立川・国立地区交通安全協会(交通安全に係わる市民活動) ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 交通の安全について市民を啓蒙する。														
(4) 結果(どんな結果に結び付けるのか)														
市内全域で交通事故が発生しない。														
(2) 各指標等の推移														
項目		名称		単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)			
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	事務的支援回数		回	2	2	2	2	2					
		市からの協力要請回数		回	1	1	1	1	1					
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	対象団体数		団体	1	1	1	1	1					
		立川・国立地区交通安全協会の出動回数		回	64	50	50	50	50					
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	交通事故発生件数		件	256	221	221	228	200					
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)													
(3) 事務事業コストの推移														
項目		単位		平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)				
支出内訳	人に係るコスト	正規職員従事人数		人	2	2	2	2	2	2	0			
		延べ業務時間		時間	270	270	270	270	270	270	0			
		正規職員人件費計(C)		千円	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	0			
		再任用職員従事人数		人								0		
		延べ業務時間		時間								0		
		再任用職員人件費計(D)		千円	0	0	0	0	0	0	0	0		
	物に係るコスト	嘱託職員従事人数		人								0		
		延べ業務時間		時間								0		
		嘱託職員人件費計(E)		千円	0	0	0	0	0	0	0	0		
		人に係るコスト計(F)		千円	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	0		
		物件費		千円	490	372	221	304	427			83		
		うち委託料		千円								0		
	移転支的コスト	維持補修費		千円								0		
		物に係るコスト計(G)		千円	490	372	221	304	427	0	83			
その他	扶助費		千円								0			
	補助費等		千円	1,842	1,843	1,840	1,847	1,864			7			
	繰入金		千円								0			
	その他		千円								0			
移転支的コスト計(H)		千円	1,842	1,843	1,840	1,847	1,864	0	7					
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	3,682	3,565	3,411	3,501	3,641	1,350	90					
収入内訳	国庫支出金		千円								0			
	都支支出金		千円								0			
	分担金及び負担金		千円								0			
	使用料及び手数料		千円								0			
	繰入金		千円								0			
	その他		千円								0			
収入計(J)		千円	0	0	0	0	0	0	0	0				
収支差額(K)=(J)-(I)		千円	-3,682	-3,565	-3,411	-3,501	-3,641	-1,350	-90					
一般財源投入割合		%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%					

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】	立川・国立地区交通安全協会は市と協力体制にあるが、あくまで独立して事業を行っている。立場的には民間であるが、上部団体は警察庁所管の公益法人である。業務の内容、出動回数からみても、この団体に対して行政が協力することは妥当である。
	なぜこの事業を行政が行わなければならないのか？税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か？かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か？	
	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 市が協力してもらいたい内容をまとめ、交通安全協会に対して依頼し、事業内容に追加してもらおう。
有効性評価	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 この事業を廃止・休止することで、交通安全協会の事業費削減につながり、活動の範囲が狭まることから、必然的に市民に対して影響が出てくる。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 交通安全協会は、交通安全対策に関して事業を行っていることから、交通安全に関わる事業と連携することができる。
	活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は？	指標は固定化されてきている。人員の確保が難しいことから新たな活動を増やすことが難しく、活動内容が限られているように思える。
	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 交通安全協会の持ち出しが多く、事業費のさらなる増加を要求されている。このことから事業費の削減は困難である。
効率性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 補助金の支出、被服貸与に関する事務は、職員が適切に対応している。
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 交通安全協会の事業報告より、他分野において市内の交通安全対策に対して参加していることから、それを通じて市内の安全につながっているため公平・公正である。
公平性評価	事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は？	事業と現在の制服における有用性について、検討が必要
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)		
(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 交通安全協会には市の施策に積極的に参加していただいている。歴史と実績のある団体であり、事業費削減よりも更なる有効活用の方向性を検討する方が望ましい。
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)		
<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止		
<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		交通安全協会の構成員が高齢化してきているため、活動範囲が固定化されてきている。積極的な勧誘活動が必要である。
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか？		交通事故が無くなり、誰もがルールを守り、交通安全が継続的になれば廃止できる。

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)															
事務事業名	No. 1	交通安全施設管理事業								←実施計画上の重点施策 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください							
政策名	No. 3	7 都市基盤								所属部	都市整備部	所属課	交通課				
施策名	No. 18	基本施策21 交通環境の整備								所属係	交通係	課長名	中島 広幸				
予算科目	会計 一般	会計 一般	0	8	0	1	0	2	0	1	3	7	6	0	0	法令根拠	道路法
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度		年度 ~ 年度										
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)										この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)							
対象は、カーブミラー、路面標示、ガードパイプ、ガードレールなど交通安全施設。										道路法上、道路附属物の整備及び維持管理は道路管理者の義務であるから当然に行うべきものである。							
【新規設置手順、維持管理手順】 1. 市民等からの設置要望に基づき、調査を行う。 2. また、職員のパトロール等から危険箇所の把握を行う。 3. 1、2の調査結果からその都度当係の担当者が設置可否を判断し、要望に関してはその結果を連絡する。 4. 設置すると決まった施設は約1ヶ月内で施工できる内容をまとめ、業者に指示書を手渡し、工事に着手してもらう。 5. 完了した場合、完了届を国立市に提出してもらい、検査を行う。										裁量性の小さい理由・根拠 公共施設、車両、システム等の維持管理を行う事業							
1 現状把握の部(PPLAN) (DO)																	
(1) 事務事業の目的と指標																	
① 手段(主な活動)																	
平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動)																	
カーブミラー、路面標示、ガードパイプ、ガードレールなどの新規設置及び維持補修、年1回のカーブミラー点検																	
平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動)																	
カーブミラー、路面標示、ガードパイプ、ガードレールなどの新規設置及び維持補修、年1回のカーブミラー点検																	
(2) 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等																	
市道及び一部の私道										③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 道路交通の危険度を低下させ、安全性を向上/維持することができる。							
(4) 結果(どんな結果に結び付けるのか)																	
市内の道路が安全で快適に通行することができる。																	
(2) 各指標等の推移																	
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)								
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	設置件数	17	16	37	10	15	15									
		修理件数	12	21	31	15	20	20									
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市道延長	138.6	138.1	139.7	139.7	139.7	139.7									
		市道延長															
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	設置件数	17	16	37	10	15	15									
		修理件数	12	21	31	15	20	20									
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	交通事故発生件数	256	221	221	228		200									
(3) 事務事業コストの推移																	
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)									
支出内訳	正規職員従事人数	人	3	3	2	2	2	2									
	延べ業務時間	時間	800	800	800	800	800	800									
	正規職員人件費計(C)	千円	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000									
	再任用職員従事人数	人															
	延べ業務時間	時間															
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0									
	嘱託職員従事人数	人															
	延べ業務時間	時間															
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0									
	人に係るコスト計(F)	千円	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000									
物に係るコスト	物件費	千円	1,441	1,784	1,837	3,463	2,592	1,209	1,626								
	うち委託料	千円	840	864	918	918	1,138	1,109	0								
	維持補修費	千円	3,480	2,169	5,832	14,528	18,752	6,000	8,696								
	物に係るコスト計(G)	千円	4,921	3,953	7,669	17,991	21,344	7,209	10,322								
移転支的コスト	扶助費	千円							0								
	補助費等	千円							0								
	繰入金	千円							0								
	その他	千円							0								
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0	0									
その他	千円	5,426	3,419	3,512	7,610	4,000	4,000	4,098									
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	14,347	12,340	15,181	29,601	29,344	15,209	14,420									
収入内訳	国庫支出金	千円							0								
	都支支出金	千円							0								
	分担金及び負担金	千円							0								
	使用料及び手数料	千円							0								
	繰入金	千円							0								
	その他	千円							0								
収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0	0									
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-14,347	-12,340	-15,181	-29,601	-29,344	-15,209	-14,420									
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%									

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与と性評価	① 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか？税金を必要とするのか、民間や受益者ができる事業か？かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か？	不特定多数が利用する施設の維持管理であるため。道路管理者(主に市道管理者)が実施する道路施設の維持管理行為であるため。
有効性評価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	現状、各施設ごとの台帳(アナログ)で管理しているが、デジタル化することにより、検索機能や補修履歴記録等の点でデータ管理・利用の応用度が向上する。なお街路灯はデジタル化済み。
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか？)	道路交通の安全確保が困難になる。
公平性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法は？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	道路工事担当部門との連携による対応の迅速化が見込める。
	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	施設の削減は事実上不可能。また、安全基準、設置基準等の専門知識を有し、施工結果に責任を負うことができるものが対応しなければならない。
効率性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	交通安全施設等を統合的に管理するシステムが導入されれば、指示書作成等の事務作業を大幅に低減できる。
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	交通安全施設の整備が十分でない地区がある。行き止まりの私道への施設設置については、その是非が個別の判断となる。
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は？ 必要な箇所への設置数がある程度充足されると、絶対的な必要性を認め難い箇所への設置要望が増えてくること。市内全体の設置数の増加に伴い、要望レベルの水準が上がり、際限なく設置箇所を増やすことになる。			
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)			
(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 現状の作業環境の中で、より効率的な事務処理に努める。	
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
③ 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
④ 公平性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)	
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		効率的な維持管理を実現するために、交通安全施設等を統合的に管理できるITシステムを導入するなどして、工事の指示を迅速に出せるようにする。	
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		交通安全施設等を統合的に管理できるITシステムの導入と定期的な調査	
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか？			
成果	向上		○
維持			×
低下		×	×

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)																																																																																																																																																																																																																																																																									
事務事業名	No. _____	道路照明施設管理事業								←実施計画上の重点施策 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください																																																																																																																																																																																																																																																																	
政策名	No. _____	7 都市基盤								所属部	都市整備部	所属課	交通課																																																																																																																																																																																																																																																														
施策名	No. _____	基本施策21 交通環境の整備								所属係	交通係	課長名	中島 広幸																																																																																																																																																																																																																																																														
予算科目	会計 _____	会計 _____	款 _____	項 _____	目 _____	事業コード _____	法令根拠	道路法																																																																																																																																																																																																																																																																			
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度		____年度 ~ ____年度																																																																																																																																																																																																																																																																				
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 市道において、設置する水銀灯及び蛍光灯の管理である。 【新規設置手順】 1. 市民からの設置要望に基づき、調査を行う。 2. 1の調査結果からその都度当係の担当者が設置可否を判断し、その結果を要望者に連絡する。 3. 設置すると決まった施設は1件ごとに施工できる内容をまとめ、業者に指示書を手渡し、工事に着手してもらう。 4. 完了した場合、完了届けを国立市に提出してもらい、検査を行う。 【維持管理手順】 1. 道路照明施設は修理に緊急を要するため、前もって市で修理期間(1ヶ月)を定め、予め業者に指示書を手渡す。 2. 指示内容は、市民からの通報・職員の巡回で発見した箇所ごとに別途指示書を作成し、それに基づき着手してもらう。 3. 完了後は、指示書の期間内で行った工事に関する書類をまとめてもらい、検査を受ける。																																																																																																																																																																																																																																																																											
1 現状把握の部(PLAN) (DO) (1) 事務事業の目的と指標 ① 手段(主な活動) 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動) 道路照明施設、ランプ取替工・灯具取替工・道路照明塗替工・道路照明設置工・街路灯現況調査・省電力型道路照明整備 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動) 道路照明施設、ランプ取替工・灯具取替工・道路照明塗替工・道路照明設置工、省電力型道路照明整備 ② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市道 ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 新規設置により暗闇が解消され、修理により夜間の明るさが維持される。 ④ 結果(どんな結果に結び付けるのか) 市内の道路が安全で快適に通行することができる。																																																																																																																																																																																																																																																																											
(2) 各指標等の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">① 手段</td> <td>活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</td> <td>設置灯数</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>7</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>修繕灯数</td> <td>408</td> <td>612</td> <td>512</td> <td>568</td> <td>400</td> <td>400</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">② 対象</td> <td>対象指標(対象の大きさを表す指標)</td> <td>市道延長</td> <td>138.6</td> <td>138.1</td> <td>138.1</td> <td>138.1</td> <td>139.7</td> <td>139.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③ 意図</td> <td>成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)</td> <td>設置灯数</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>7</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>修繕灯数</td> <td>408</td> <td>612</td> <td>513</td> <td>568</td> <td>400</td> <td>400</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④ 結果</td> <td>上位成果指標(結果の達成度を表す指標)</td> <td>交通事故発生件数</td> <td>256</td> <td>221</td> <td>221</td> <td>228</td> <td></td> <td>200</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	設置灯数	10	12	7	13	10	10			修繕灯数	408	612	512	568	400	400		② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市道延長	138.6	138.1	138.1	138.1	139.7	139.7											③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	設置灯数	10	12	7	13	10	10			修繕灯数	408	612	513	568	400	400		④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	交通事故発生件数	256	221	221	228		200																																																																																																																																																																																				
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																		
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	設置灯数	10	12	7	13	10	10																																																																																																																																																																																																																																																																			
		修繕灯数	408	612	512	568	400	400																																																																																																																																																																																																																																																																			
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市道延長	138.6	138.1	138.1	138.1	139.7	139.7																																																																																																																																																																																																																																																																			
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	設置灯数	10	12	7	13	10	10																																																																																																																																																																																																																																																																			
		修繕灯数	408	612	513	568	400	400																																																																																																																																																																																																																																																																			
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	交通事故発生件数	256	221	221	228		200																																																																																																																																																																																																																																																																			
(3) 事務事業コストの推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">支出内訳</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>人</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>1,300</td> <td>1,300</td> <td>1,300</td> <td>1,300</td> <td>1,300</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>正規職員人件費計(C)</td> <td>千円</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費計(D)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員人件費計(E)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人に係るコスト計(F)</td> <td>千円</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">物に係るコスト</td> <td>物件費</td> <td>千円</td> <td>51,065</td> <td>56,786</td> <td>50,761</td> <td>39,383</td> <td>34,505</td> <td>-11,378</td> </tr> <tr> <td>うち委託料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>維持補修費</td> <td>千円</td> <td>8,466</td> <td>7,904</td> <td>8,504</td> <td>14,528</td> <td>18,752</td> <td>6,024</td> </tr> <tr> <td>物に係るコスト計(G)</td> <td>千円</td> <td>59,531</td> <td>64,690</td> <td>59,265</td> <td>53,911</td> <td>53,257</td> <td>-5,354</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">移転支的コスト</td> <td>扶助費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>補助費等</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>移転支的コスト計(H)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>その他</td> <td>千円</td> <td>755</td> <td>804</td> <td>1,372</td> <td>1,245</td> <td>1,000</td> <td>-127</td> </tr> <tr> <td>支出計(I)=(F)+(G)+(H)</td> <td>千円</td> <td>66,786</td> <td>71,994</td> <td>67,137</td> <td>61,656</td> <td>60,757</td> <td>-5,481</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">収入内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>都支支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>分担金及び負担金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>使用料及び手数料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>収入計(J)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>収支差額(K)=(J)-(I)</td> <td>千円</td> <td>-66,786</td> <td>-71,994</td> <td>-67,137</td> <td>-61,656</td> <td>-60,757</td> <td>-67,053</td> <td>5,481</td> </tr> <tr> <td>一般財源投入割合</td> <td>%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	支出内訳	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3	延べ業務時間	時間	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	0	正規職員人件費計(C)	千円	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	0	再任用職員従事人数	人							延べ業務時間	時間						0	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0	嘱託職員従事人数	人							延べ業務時間	時間						0	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0	人に係るコスト計(F)	千円	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	0	物に係るコスト	物件費	千円	51,065	56,786	50,761	39,383	34,505	-11,378	うち委託料	千円						0	維持補修費	千円	8,466	7,904	8,504	14,528	18,752	6,024	物に係るコスト計(G)	千円	59,531	64,690	59,265	53,911	53,257	-5,354	移転支的コスト	扶助費	千円						0	補助費等	千円						0	繰入金	千円						0	その他	千円						0	移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0	その他	その他	千円	755	804	1,372	1,245	1,000	-127	支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	66,786	71,994	67,137	61,656	60,757	-5,481	収入内訳	国庫支出金	千円						0	都支支出金	千円						0	分担金及び負担金	千円						0	使用料及び手数料	千円						0	繰入金	千円						0	その他	千円						0	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0	収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-66,786	-71,994	-67,137	-61,656	-60,757	-67,053	5,481	一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																			
支出内訳	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3																																																																																																																																																																																																																																																																			
	延べ業務時間	時間	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	正規職員人件費計(C)	千円	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	再任用職員従事人数	人																																																																																																																																																																																																																																																																									
	延べ業務時間	時間						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	嘱託職員従事人数	人																																																																																																																																																																																																																																																																									
	延べ業務時間	時間						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	人に係るコスト計(F)	千円	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	0																																																																																																																																																																																																																																																																			
物に係るコスト	物件費	千円	51,065	56,786	50,761	39,383	34,505	-11,378																																																																																																																																																																																																																																																																			
	うち委託料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	維持補修費	千円	8,466	7,904	8,504	14,528	18,752	6,024																																																																																																																																																																																																																																																																			
	物に係るコスト計(G)	千円	59,531	64,690	59,265	53,911	53,257	-5,354																																																																																																																																																																																																																																																																			
移転支的コスト	扶助費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	補助費等	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																				
その他	その他	千円	755	804	1,372	1,245	1,000	-127																																																																																																																																																																																																																																																																			
	支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	66,786	71,994	67,137	61,656	60,757	-5,481																																																																																																																																																																																																																																																																			
収入内訳	国庫支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	都支支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	分担金及び負担金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	使用料及び手数料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																			
	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																			
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-66,786	-71,994	-67,137	-61,656	-60,757	-67,053	5,481																																																																																																																																																																																																																																																																			
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	100%																																																																																																																																																																																																																																																																				

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか？税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か？かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か？ 公共道路の維持管理のひとつ、道路照明である。収益を得ることのできないものである。国、都、市など道路管理者が行う。																				
有効性評価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 職員のパトロールや市民からの通報を中心に整備点検を行っているが、道路照明施設を統合的に管理するシステムを導入することにより、通報時の場所の特定が早くなるばかりでなく、効率的で無駄のない維持補修が可能となる。																				
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか？) 道路交通の安全確保が困難になる。																				
公平性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 交通安全施設と一緒に統合的に管理するシステムを導入することで、新設及び修繕に対し素早い対応を取ることができる。																				
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 交通安全施設の整備が十分でない地区がある。行き止まりの私道への施設設置については、その是非が個別の判断となる。																				
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は？ 特に維持補修の対象が、要望・苦情箇所が主になっていることから、自主点検等を強化していく必要がある。																						
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 道路照明施設は市民の安全を守るために設置されているものであり、修繕等には迅速な対応をしなければならない。また、電気工事であることから、工事等に関しては専門の業者で対応する必要がある。 さらなる歳入を確保できないか？																				
公平性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 道路照明施設を統合的に管理するITシステムの導入により、指示書作成等の事務作業を大幅に低減できる。																				
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は？ 必要な箇所への設置数がある程度充足されると、絶対的な必要性を認め難い箇所への設置要望が増えてくること。市内全体の設置数の増加に伴い、要望レベルの水準が上がり、際限なく設置箇所を増やすことになる。																						
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION) (1) 1次評価者としての評価結果 ① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり (2) 全体総括(振り返り、反省点) 現状の作業環境の中で、より効率的な事務処理に努める。																						
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 効率的な維持管理を実現するために、交通安全施設等を統合的に管理できるITシステムを導入したことから、工事の指示を迅速に出せるよう事務の効率化を図る。		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コスト</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		削減	維持	増加	コスト				向上	○			維持			×	低下		×	×
	削減	維持	増加																			
コスト																						
向上	○																					
維持			×																			
低下		×	×																			
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 LED化により、灯具本体の補修は少なくなるが、ポールや附属設備の定期的な点検と補修が必要																						
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか？																						

事務事業マネジメントシート（兼 事務事業コスト計算書）

事務事業名	No.	自転車走行空間整備事業				←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから 該当項目を選択してください	
政策名	No.	7都市基盤				所属部	都市整備部
施策名	No.	基本施策21 交通環境の整備				所属課	交通課
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	法令根拠	自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的 推進に関する法律、道路法、道路交通法
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度 （ 27 年度 ～ 年度 ）		

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)

平成25年12月に施行された改正道路交通法により、自転車の右側路側帯通行が禁止され、自転車利用者に対する左側通行徹底が課題となっている。自転車の通行位置を明示する法定外標示である「自転車ナビマーク」を市内の自転車交通量の多い路線を中心に整備することにより、左側通行及び自転車の安全な利用を促進する。

法改正後も依然として自転車の無秩序な走行が見受けられ、交通量の比較的多い道路については苦情が寄せられることもあった。そのため、自転車、自動車、歩行者の安全対策の一環として当事業を開始した。

1 現状把握の部(PPLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標
① 手段(主な活動)
平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動)
自転車ナビマーク設置(1路線、計50箇所)
・北大通り(L=1.1km)

平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動)

② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等
市道

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
車道上に自転車の通行すべき位置及び方向を明示することで、自転車の交通安全の向上に寄与する。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
安全に快適な通行ができる
交通事故が発生しない

(2) 各指標等の推移

項目	名称	単位	平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (決算)(A)	平成28年度 (決算見込み)(B)	平成29年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 自転車ナビマーク整備路線数	ア 路線			2	1	0	0	-1
		イ							0
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標) 市道	ア km			138	138	138	138	0
		イ							0
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 自転車ナビマーク整備延長	ア km			1.8	1.1	0	0	-0.7
		イ							0
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 交通事故発生件数(件)	ア 件			221	228		200	7
		イ							0

(3) 事務事業コストの推移

項目	単位	平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (決算)(A)	平成28年度 (決算見込み)(B)	平成29年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
支出内訳	正規職員従事人数	人			2	2	2	2
	延べ業務時間	時間			150	150	150	0
	正規職員人件費計(C)	千円	0	0	750	750	750	0
	再任用職員従事人数	人						
	延べ業務時間	時間						0
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0
	嘱託職員従事人数	人						
	延べ業務時間	時間						0
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0
	人に係るコスト計(F)	千円	0	0	750	750	750	0
物に係るコスト	物件費	千円						0
	うち委託料	千円						0
	維持補修費	千円						0
物に係るコスト計(G)		千円	0	0	0	0	0	0
移転支的コスト	扶助費	千円						0
	補助費等	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円			2,106	784	7,941	-1,322
移転支的コスト計(H)		千円	0	0	2,106	784	7,941	0
その他	千円							0
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	0	0	2,856	1,534	8,691	750
収入内訳	国庫支出金	千円						0
	都支出金	千円						0
	分担金及び負担金	千円						0
	使用料及び手数料	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円						0
	収入計(J)		千円	0	0	0	0	0
収支差額(K)=(J)-(I)		千円	0	0	-2,856	-1,534	-8,691	-750
一般財源投入割合		%	#DIV/0!	#DIV/0!	100%	100%	100%	100%

2 評価の部(CHECK)*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を必要とするのか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?
有効性評価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 本事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)
効率性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 本事業の効果的な推進にあたっては、平成28年度より実施している自転車施策総合推進事業の中で策定する自転車ネットワーク計画に基づいた計画的な整備を行うことが肝要である。
	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 現在試行的実施段階にあり、必要最小限度の整備しか実施していないため、これ以上事業費を削減する余地はない。
公平性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 現在は試行的実施段階にあり、必要最小限度の整備しか実施していないため、これ以上人件費を削減する余地はない。
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか? 将来的には自転車走行空間は市全体にわたって整備すべきであり、公平性は確保されているといえる。

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
自転車走行空間を整備すべき路線とその手法について、総合的な観点からの検討が必要である。

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
現時点ではないが、計画的に整備を実施する段階においては、整備対象や整備手法の詳細な検討によりコストや公平性を考慮していくべきである。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 担当課評価者としての評価結果

① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)
おおむね良好であるが、自転車ネットワーク計画の策定にあわせてより有効に作用する路線を選定し、またより効果的な整備手法を採用するよう検討を進める必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載
 事業のやり方改善(有効性改善) 事業のやり方改善(効率性改善) 事業のやり方改善(公平性改善)
 事業統廃合・連携 縮小 休止 廃止
現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)
自転車ネットワーク計画の策定にあわせ、計画的に整備を推進していく。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		削減	維持	増加
成果	向上	○		
	維持			×
低下			×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
自転車ネットワーク計画策定にあたり、優先度の設定などについての関係者の合意形成を図ること⇒自転車対策審議会において調整する

(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?
市内の自転車走行空間が必要とされるすべての区間において整備されたときに目標が達成されたこととなる。または、事業コストに照らし整備効果が見込める路線がなくなったときに廃止対象となる。

評価実施 平成 29 年度	事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)										
事務事業名	No. 自転車施策総合推進事業		←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください								
政策名	No. 7都市基盤		所属部	都市整備部		所属課	交通課				
施策名	No. 基本施策21 交通環境の整備		所属係	交通係		課長名	中島 広幸				
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	法令根拠	自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律 国立市自転車安全利用促進条例				
事業期間	単年度のみ		☑ 単年度繰返		期間限定複数年度		年度 ~ 年度				
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)					
<p>放置自転車問題や自転車駐車場運営など自転車対策に関する重要な事項について、調査審議するため、自転車対策審議会を設置し運営した。審議会は学識経験者、道路管理者、警察及び鉄道事業者等で組織する。また、財政健全化の取り組み方針を受けた自転車駐車場使用料の見直しや自転車ネットワーク計画についても審議会で議論していく。</p>						<p>放置自転車や自転車駐車場運営などの自転車対策について、国立市では多くの課題を抱えており、市民意見等も取り入れながら課題解決を行うために平成28年度から審議会を設置した。</p>					
裁量性の小さい理由・根拠						審議会等の運営のみを行っている事業					
1 現状把握の部(PLAN) (DO)											
(1) 事務事業の目的と指標											
① 手段:平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載)											
① 国立駅南第1自転車駐車場の使用料の検討 ② 中央線高架下自転車駐車場の利用促進の検討 ③ 自転車ネットワーク計画の検討											
① 手段:平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載)											
① 中央線高架下自転車駐車場の使用料改定の検討 ② 国立市自転車安全利用促進条例の改正の検討 ③ 自転車ネットワーク計画の検討											
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市内の自転車利用者						③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 放置自転車や自転車の走行空間の整備等の自転車に関する課題の解決					
④ 結果:基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度 放置自転車等の自転車に関する課題が解決される											
(2) 各指標等の推移											
	項目	名称	単位	平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (決算)(A)	平成28年度 (決算見込み)(B)	平成29年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)	
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	開催回数	ア				3		3	3	
			イ							0	
	対象指標(対象の大きさを表す指標)	人口	ア				75,054	75,466	76,000	75054	
			イ								0
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		ア							0	
			イ							0	
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		ア							0	
			イ							0	
(3) 事務事業コストの推移											
	項目	単位	平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (決算)(A)	平成28年度 (決算見込み)(B)	平成29年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)		
支出内訳	人に係るコスト	正規職員従事人数	人				2	2	2		
		延べ業務時間	時間				100	100	100		
		正規職員人件費計(C)	千円	0	0	0	500	500	500		
		再任用職員従事人数	人								
		延べ業務時間	時間						0		
		再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0		
	物に係るコスト	嘱託職員従事人数	人								
		延べ業務時間	時間						0		
		嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0		
		人に係るコスト計(F)	千円	0	0	0	500	500	500		
		物件費	千円				77		77		
		うち委託料	千円				77		77		
	移転支的コスト	維持補修費	千円						0		
		物に係るコスト計(G)	千円	0	0	0	77	0	77		
扶助費		千円						0			
補助費等		千円				154		154			
その他	繰入金	千円						0			
	繰入金	千円						0			
	繰入金	千円						0			
支出計(I)=(F)+(G)+(H)			千円	0	0	731	500	500	731		
収入内訳	国庫支出金	千円							0		
	都支出金	千円							0		
	分担金及び負担金	千円							0		
	使用料及び手数料	千円							0		
	繰入金	千円							0		
	繰入金	千円							0		
	繰入金	千円							0		
収入計(J)			千円	0	0	0	0	0	0		
収支差額(K)=(J)-(I)			千円	0	0	-731	-500	-500	-731		
一般財源投入割合			%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100%	100%	100%		

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共 関与 性 評 価	① 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																
		<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】																
		なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?																
		放置自転車や自転車走行空間の整備等の自転車に関する課題は市が主体的に解決すべきものであり、その諮問機関の運営も市が行うべきものである。																
有 効 性 評 価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																
		<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】																
		成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?																
		審議すべき議題が多く、自転車走行空間の整備について具体的な検討ができていない。																
有 効 性 評 価	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																
		<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】																
		事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)																
		自転車対策について審議できる機関がなくなる。																
有 効 性 評 価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業)																
		<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																
		<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】																
		<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】																
		目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?																
		自転車対策について他に審議できる諮問機関はない。																
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?																		
審議すべき議題が多く、具体的な検討ができていない課題がある。																		
効 率 性 評 価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																
		<input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】																
		成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)																
		委員報酬及び筆耕翻訳料のみの最低限の事業費で運営を行っている。																
効 率 性 評 価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																
		<input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】																
		やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか?(アウトソーシングなど)																
		事務改善等により業務時間を削減できる可能性はある。																
公 平 性 評 価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																
		<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】																
		事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか?受益者負担が公平・公正になっているか?																
		公募により選出された市民委員、関係機関及び関係事業者などが参加していることもあり、一定の公平性は確保されている。																
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?																		
事務改善等により業務時間を削減できる可能性はある。																		
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)																		
(1) 担当課評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	審議すべき議題が多く、具体的な検討ができていない課題がある。一方で事務改善等により業務時間を削減できる可能性はある。																
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
③ 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上	○			維持			×	低下		×	×
	削減		維持	増加														
向上	○																	
維持			×															
低下		×	×															
<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止																		
現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																		
効率的な議事運営に努め、山積する自転車に関する課題を解決していく。																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																		
効率的な議事運営に努める。																		
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?放置自転車や自転車走行空間の整備等の自転車に関する課題がすべて解決される。																		

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)									
事務事業名		No. 谷保駅北第3・5自転車駐車場用地購入事業		←実施計画上の重点項目		重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください					
政策名		No. 7都市基盤		所属部	都市整備部		所属課	交通課			
施策名		No. 基本施策21 交通環境の整備		所属係	交通係		課長名	中島 広幸			
予算科目		会計	款	項	目	事業コード		法令根拠	自転車利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律 国立市自転車安全利用促進条例		
事業期間		☑ 単年度のみ		☐ 単年度繰返		☐ 期間限定複数年度		→ (年度 ~ 年度)			
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)									
谷保駅北第3・5自転車駐車場は、JR東日本と賃貸借契約を結び、整備したものである。谷保駅周辺には一時利用専用の自転車駐車場が3か所、定期利用と併用の自転車駐車場が2か所あるが、南口にある併用の1か所を除き、すべて用地は借地である。今後、土地所有者から土地の返還が求められることは十分予測できる。その場合、自転車の収容台数が大幅に減少してしまう。そのため、利用者に影響を及ぼすことがないよう、JRと協議を行い買収について協議の整った当該土地の買収を行った。		谷保駅バリアフリー化事業について、JRと協議を行う中で、JRより提案があった。									
		裁量性の小さい理由・根拠 事業類型を選択してください。									
1 現状把握の部(PPLAN)(DO)											
(1) 事務事業の目的と指標											
① 手段: 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載)											
① 用地の測量 ② 不動産鑑定及び公共用地等価格審査委員会への付議 ③ 用地買収											
① 手段: 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載)											
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 自転車駐車場用地											
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか 賃貸借している用地を買収する。											
④ 結果: 基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度 自転車駐車場の恒久的な整備が可能になる。											
(2) 各指標等の推移											
項目		名称		単位	平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (決算)(A)	平成28年度 (決算見込み)(B)	平成29年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)			ア							0
				イ							0
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	谷保駅周辺の自転車駐車場		ア			7	7	7		0
				イ							0
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	谷保駅周辺の自転車駐車場(市有地)		ア			1	3	3		2
		谷保駅周辺の自転車駐車場(借地)		イ			6	4	4		-2
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)			ア							0
				イ							0
(3) 事務事業コストの推移											
項目		単位	平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)	平成27年度 (決算)(A)	平成28年度 (決算見込み)(B)	平成29年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)		
支出内訳	人に係るコスト	正規職員従事人数	人				2	2	2		
		延べ業務時間	時間				100	100	100	100	
		正規職員人件費計(C)	千円	0	0	0	500	500	500	500	500
		再任用職員従事人数	人								
		延べ業務時間	時間								0
		再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	物に係るコスト	嘱託職員従事人数	人								
		延べ業務時間	時間								0
		嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		人に係るコスト計(F)	千円	0	0	0	500	500	500	500	500
		物件費	千円				3,161				3,161
		うち委託料	千円				3,161				3,161
	移転支的コスト	維持補修費	千円								0
		物に係るコスト計(G)	千円	0	0	0	3,161	0	0	3,161	3,161
		扶助費	千円								0
補助費等		千円								0	
その他	繰入金	千円								0	
	繰入金	千円								0	
移転支的コスト計(H)		千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	0	0	0	103,461	500	500	103,461	103,461	
収入内訳	国庫支出金	千円								0	
	都支支出金	千円								0	
	分担金及び負担金	千円								0	
	使用料及び手数料	千円								0	
	繰入金	千円								0	
	繰入金	千円								0	
収入計(J)		千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
収支差額(K)=(J)-(I)		千円	0	0	0	-103,461	-500	-500	-103,461	-103,461	
一般財源投入割合		%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100%	100%	100%			

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価																	
公共関与性評価	① 公共関与の妥当性 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 ☑ 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を必要とするか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?																
有効性評価	② 成果の向上余地 ☑ 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 ☑ 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか? ③ 廃止・休止の成果への影響 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 ☑ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?) 谷保駅周辺は借地を用地としている自転車駐車場が多く、地権者から返還を求められた際に、停める場所のない自転車が放置される恐れがある。																
公平性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性 ☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 ☑ 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか? 谷保駅バリアフリー化事業について、JRと協議を行う中で、JRより提案があったため、当該用地の買収を行った。																
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?																	
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保 ☑ 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 ☑ 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 最低限の事業費及び公正な価格での買収を行った。 さらなる歳入を確保できないか?																
公平性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 ☑ 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか?(アウトソーシングなど) 事務改善等により業務時間を削減できる可能性はある。																
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 ☑ 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか? 他の自転車駐車場と同様に使用料の見直しについては検討する必要がある。																
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は? 他の自転車駐車場と同様に使用料の見直しについては検討する必要がある。																	
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)																	
(1) 担当課評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 審議すべき議題が多く、具体的な検討ができていない課題がある。 一方で事務改善等により業務時間を削減できる可能性はある。																
① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
④ 公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☑ 事業のやり方改善(効率性改善) ☑ 事業のやり方改善(公平性改善) ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
他の自転車駐車場と同様に使用料の見直しについては検討する。																	
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			削減	維持	増加	向上				維持			×	低下		×	×
	削減	維持	増加														
向上																	
維持			×														
低下		×	×														
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 他の自転車駐車場と同様に使用料の見直しについては検討する。																	
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか? 買収が完了したため、目標は達成された。																	